

京都府立大学の体育館がアリーナに？

商業アリーナの 学生への影響とは

4つの 矛盾

point 01 大学が娯楽の商業スペースに

学生環境よりも企業の儲けが優先に。
プロスポーツのイベントでは酒類の提供も。



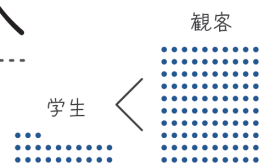
point 02 学生の専攻分野と関連なし

府大にスポーツ科やビジネス科はありません。
体育会系クラブの強豪校でもありません。



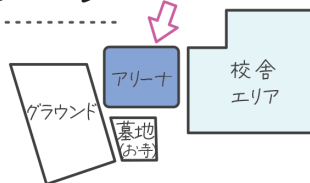
point 03 学生より多い観客が学内へ

府大の学生数は2,300人弱。それなのに最大
1万人収容規模のアリーナを計画しています。



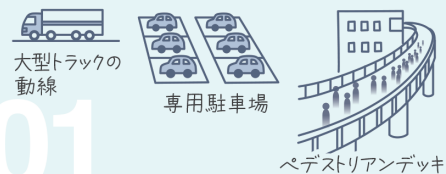
point 04 校舎と隣りあう巨大アリーナ

校舎はアリーナの建設場所と隣りあわせ。
下鴨キャンパスは面積に余裕がありません。



スペースの圧迫

商業アリーナは巨大な建物本体だけでなく、外側にもさまざまな設備が必要です。その面積のぶんだけ学生のためのスペースは削られてしまいます。



5つの 負担



アリーナ計画
見直しの署名は
こちらから！



長い工期と老朽校舎

工事の計画は商業アリーナが最優先。体育館なら5ヶ月ほどで完成する工法もあるのに、商業アリーナの大がかりな工事のために耐震基準をみたまない校舎の建てかえは1年と3ヶ月以上も後回しです。



イベントの騒音

収容人数が1万人規模の商業アリーナは施設単体では運営会社は赤字になりません。儲けをだすには周囲一帯でのイベント興行が必須になります。



混雑とセキュリティの問題

交通の混雑や治安への影響も学生の負担に。通常大学の一般開放と巨大な娯楽施設をなかに建設したうえで敷地を解放するのは状況がまったく違います。



体育館を自由に 使えない

商業アリーナの管理は企業が担います。利益のためには高額な使用料の見込める商業利用が優先に。結果的に学生の使用は一般に需要のない日時に限られます。

スポーツイベント：30日
コンサート：30日
MICE：15日
= 2ヶ月半以上

